

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）事後評価調査

都道府県名	山口県	事業実施主体	山口県、萩市及び阿武町	地域再生計画名	阿武萩地域の自然と文化にふれあう交流のまちづくり計画
計画期間	平成23年度～平成29年度	評価責任者	山口県萩農林水産事務所、萩市農林振興課、阿武町施設課・経済課、JAあぶらんど萩、阿武萩森林組合、萩市農業委員会、阿武町農業委員会、山口県酪農農業協同組合		

	指標	基準値		中間目標値		最終目標値（見込み）		見込み評価	最終目標値の実現状況に関する評価		
		基準年度		年度	中間実績	基準年度	直近値				
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標1	拠点施設間のアクセスの改善	農道：0分短縮 林道：0分短縮 H23	—	—	—	農道：4分短縮 林道：3分短縮 H29	農道：0分短縮 林道：3分短縮 (H29)	△	・林道においては、平成25年度に整備が完了し、目標の達成が図られた。 ・広域農道においては、大雨による法面崩壊への対応に不測の期間を要したことから、当該路線の全線開通に至らず、想定された効果発現には至らなかったものの、当該路線の部分開放に伴う、林業作業のアクセス改善などの効果が認められた。	
	指標2	交流人口の増	0人/年	H22	—	—	400人/年	H29	800人/年 (H29)	○	・体験型教育旅行の受け入れや訪日外国人旅行者を農泊として受け入れるなど、交流人口の増に資する各種事業の推進を図ることにより、目標の達成が図られた。
	指標3	地産・地消の店舗の増	27店舗	H21	—	—	32店舗	H29	36店舗 (H29)	○	・本計画に位置付けられた地産・地消に資する各種取り組みの推進を図ることにより、やまぐち食彩店舗数が目標を上回るとともに、阿武萩地域で生産される農林水産物など味や品質を重視し独自の基準を設けて選定した山口ブランド登録商品も31件に達するなど、目標の達成が図られた。
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標1										
	指標2										

③事業の進捗状況	事業名	整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価
		計画	中間年度（—）	最終実績	
特別措置を適用して行う事業	農道整備事業（整備延長）	3.2km	—	1.6km	・本路線は、施工区間への接続路が無く、施工箇所の増設による工期短縮などの対応が不可能な技術的にも困難な現場条件での新規開設であったことに加え、事業開始後、大雨に伴う法面崩壊等が発生し、その復旧や工法の見直し等に不測の調整期間を要したことから、計画整備延長L=3.2kmのうち、L=1.6kmの完成に留まった。 ・ただし、完成区間に限り供用が開始されたことから、農道沿いにあるイラオ火山灰観察施設を活用した現地見学会等が平成26年から延べ25回開催されるなど交流人口の増に寄与している。 ・また、林業作業においても、当該開通区間の利用を通じたアクセス改善により切り捨て間伐から搬出（利用）間伐（約10ha）に切り替わるなど、木材の利用促進が図られるようになった。
	林道整備事業（整備延長）	2.5km	—	2.5km	・林道の拡幅・線形の改良により、森林整備を効率的に実施することが可能となるとともに、切り捨て間伐から搬出（利用）間伐（約10ha）に切り替えて実施するなど、木材の利用促進が図られるようになった。 ・また、拠点施設等へのアクセスも改善し、地域の活性化に寄与している。
その他の事業	中山間地域総合整備事業 木間地区	中山間地域による生産基盤及び環境基盤の整備を実施			・暗渠排水や農業用排水施設等の農地整備により、農事組合法人における大豆等の畑作物の作付面積が拡大した。 ・また、体験交流拠点を兼ねる農産物加工施設が整備され、地元産の農産物を活用した商品の製造販売が可能となり、地域活性化に寄与している。
	中山間地域総合整備事業 三見河内地区	中山間地域による生産基盤の整備を実施			・ほ場の区画整理や農道、暗渠排水等の農地整備により、農事組合法人における大型機械の導入による営農経費の節減や畑作物の生産拡大が図られた。 ・新鮮で安心・安全な地産・地消の農産物の生産・供給を通じて、地域農業の振興に寄与している。
	ぶちうま！やまぐち推進事業	地産地消の取組を実施			・生産者、流通・加工関係者、消費者が協働した地産・地消の推進や販路拡大及び新たな商品開発の取組みにより、需要拡大が推進された。
	やまぐちの食を支える協働活動促進事業	生産者・流通商工関係者・消費者による共同活動を実施			・生産者、消費者、異業種関係者等による農林水産業・農山漁村への理解を深める協働活動の展開により、地産・地消の取組みが推進された。
	萩まちじゅう博物館	文化財等を対象に地域遺産の発見・保存や展示・情報発信等を実施			・文化財をはじめ豊かな文化や歴史・自然のおたから（地域遺産）の展示・保存・整備・情報発信など、NPOや地域団体等との協働による取組みが推進された。
	やまぐちスロー・ツーリズム推進事業	体験型教育旅行を活用した受け入れ体制づくりや交流活動を担う人材の育成の実施			・都市と農山漁村地域の交流促進のため、受け入れ体制づくりや人材育成など、地域住民との協働の取組みが推進された。
計画外で独自に実施した事業	日本型直接支払制度（多面的機能支払、中山間地域等直接支払）	農業者や地域住民が農村環境を保全する協働活動及び農地・農業用水などの保全を実施			・農業・農村の多面的機能の維持・発揮に向けた農業者や地域住民が一体となった協働活動を展開し、農地・農業用施設の適正な保管理体制の構築や集落活動の活性化が図られた。
	萩ジオパーク構想	広域農道にある火山噴出物の露頭を中心とした萩・阿武地域の地質資源を活用し、地域振興を図る			・関係団体等と連携して、平成26年度から現地見学会等を開催し、広域農道沿いにあるイラオ火山灰施設を含めた阿武萩管内において、述べ1,022人の参加があった。

④評価方法 県・市町・農業関係団体で構成する「萩地域農林業・農山村振興協議会」で実施

⑤事後評価の公表方法 山口県、萩市及び阿武町のホームページに掲載

⑥計画全体の総合評価
 ・林道整備により間伐材の搬出促進につながる通行利便性の改善が図られ、地域の主たる産業である林業振興が図られるとともに、農業の振興に資する、農産物加工センターでの活動やふるさとふれあいまつりの開催などの各種取り組みを推進することにより、交流人口の増加という具体的な成果が認められる。
 ・また、圏域内の来訪者等の増加とともに地産・地消の推進に資する取組を行うことにより、地産・地消商品や取扱店舗数の増加という目標の達成も図られており、これらの取り組みを通じて地域の活性化への貢献が図られている。
 ・なお、一部目標未達となったアクセス改善について、対象となる広域農道の一部区間の部分開通により、既に交流人口の増加や林業作業の効率化等の効果の発現は確認されており、今後は、当該路線の全線開通により、地域の活性化につながるさらなる効果の発現とその維持が期待されることから、当該路線の早期完成に努めること。

⑦今後の方針等
 ・加えて、本地域においては、萩ジオパーク構想等の新たな地域活性化に資する取組が進められていることから、これらの活動と連動し、地域の胎動を促す視点が重要である。今後の道のネットワーク構築に係る事業の実施に当たっては、地方創生の観点からこれらの取組みとの連携について留意し、当該路線の早期完成により更なる効果の発現に努める。